

抗マラリア剤	レゾヒン	500錠	全員、予防に定量をのんでいたのに、幸いどれもマラリアにはならなかった。
抗生物質軟膏	クロロマイセチン軟膏	100g	インディオに多い化膿に抜群の効果を発揮する。とうてい足りなかった。これもまたマナウスでは安価。

デモンストレーションの効果も大きなものがあった。彼らは皮膚病および虫さされ（主にブユ）から、あるいは切り傷からの化膿症が多く、赤チンは塗るだけで喜ばれ、抗生物質軟膏は、非常に効果的であった。

内服薬とりわけピリン系、クロロキシン、抗生物質のインディオに対する使用は、できる限り制限したつもりである。医者ならともかく素人は慎重に行なうべきである。

最後に医学的知識の無知を思い知らされ、今後、医療係と名のつく人間は、真剣にこの点を熟慮しなければならないと痛感した。

以下に、使用したおもな薬品のリストを掲げて、ジャッカンの考察を加えてみた。ただし数量的にはFUNAIも大量に持ち込み、共同使

用という形をとったので、実際には、ほとんど充足していたが、ここには我われが準備した分だけを記す。

なお、この他に外用薬のマーキュロクロム、ヨードチンキ、オキシドール、アルコールなどは現地でも各1ℓ以上購入しなければならない。外用薬はあまりに少なすぎたことを反省する。

なお、マナウスでの在所一日本人学生寮にはアマゾン大学医学部の学生が9名が入居しており、医療計画の面、あるいは購入の面に多大な協力をうけ、また隊員の病気の治療にまで奔走していただき、この項を借りて謝意をあらわします。

(津田)

撮 影

基本的な考え方 我われは当初よりフィールド・ワークで占め、写真の重要さは充分考えていたし、また討論してきた。特にメンバーの弱少であったので、写真や録音によってカバーしようと考えた。しかし、これが大きいくずれた。写真の担当者が退部し、メンバーは3名になり、この重要なポジションをどうするかで大いに悩んだのである。そこで、どういふわけか私に役が回ってきた。こうなったら仕方ない

と思い、写真には自信のない私であったが、とにかくピンボケ写真を撮らないということを念頭においた。そして常に3台のカメラを持ち歩き、カラーズライドと白黒をセットして、一台で失敗しても他のカメラがそれを補おうという方式をとった。それができなければ2台のカメラで同じ写真を撮るか、1台のカメラで何枚も同じものを撮るかということを試みた。

アプローチのさいのカメラ アプローチは

船によるものと、徒歩とがあった。船の場合は問題はないが、カヌーの場合、転覆、あるいは水が入るため、ビニール袋に入れ、常に乾燥剤を入れ、絶対水気の入らぬように所持した。徒歩の場合、ジャングルを歩くわけであるが、絶対に首にカメラをかけては行けない。これはインディオが道なき道を、あまりに速く歩き、撮影する余裕などないからである。余程のことがない限り、カメラをザックより出すことはない。カメラはビニールの他に、クッションの役目を果たす、河かに必ず包んで持ち歩いた。フィルムはタッパウェアの中に乾燥剤とともに入れ、フィルムケースの中にも乾燥剤を入れた。

部落定着のさいのカメラ 持ち込んだフィルムの本数に合わせて1日何本というように考えていたが、絶対数が少ないと、やはり撮るのをためらってしまう。特に下手なだけに本数だけは余裕があれば後になって思う。それと部落成員の写真を面倒でも全部撮っておくべきだったと後悔する。すべてのことが「人」から成り立っており、後のちノートを整理する時、写真でもないと思ひ出さないのである。いちばん気を付けねばならないのが首長をまず撮ること、そうでないと、まず他の人間は撮れない。それと恐れる人を無理に撮れないことである。最初カメラを向けると母親は子供を抱いて逃げてしまう。カメラがこわいのである。しかし、かりに私という人間を彼らが信用すれば、私の持つカメラは、彼らにとって決して逃げるほどのことはなくなるのである。

まず、仲良くなるということが、最も大切な事である。フラッシュを使用するのは非常に勇気がいった。とにかく、これだけはさすがに彼らもアッと驚きの声を出すのである。この非常に不快感をもたらした閃光にも最後には笑い声

さえおきたことに、私は彼らとの親密度の深まりを感じるのだった。もし彼らのありのままを撮ろうとするとこわがったり、いやがる彼らの写真を撮ることは、彼らの自然の姿とはいえない。この点、彼らが実に柔和な人達であったことが幸いし、笑顔の写真がとれたことは喜ばしいことであった。

しかし、さすがに出産したばかりの女性に対しては、カメラを向ける気がしなかった。これは何も彼らがこわいとか、写真を撮ったことによって、後に子供が死んだりすれば、自分が殺されるのではないか、という気持ちではない。答えは出ないが、そんな時に自分がカメラを向けるのは、何か不純な感じがしたためである。そのためファインダーをのぞかず、そっとシャッターを押した。正直いって今回、今はいい写真が撮れる、今こそ撮るべきだと思ったことが何度もあった。しかし、私と彼らが夢中で何かをしている時に、どうしてもカメラを取り出して撮ることができないのである。今、写した写真を見てると圧倒的に女性が多いのがわかる。これは私が男のためであろう。許してもらいたい。

失敗例としては、まず現像をマナウスで少ししたが、拙劣な技術のため、ネガが完全に悪くなった。スライドも何本か出したが、そのうち一本は、写真屋にぬき取られた。後で聞いたところによると、いい写真があれば、ときどき、「写ってなかった」といって、取られてしまうそうである。そのため、残りはすべて完璧に保管して日本で現像した。またフラッシュの際の失敗が多い。真っ暗な中で懐中電灯一本が頼りゆえ、これだけは慣れを要する。

使用器材

○カメラ ユニカ F T A , ペンタックス SP

ハーフサイズ4台
ほとんど一眼レフ2台を使用。す
べて標準レンズ。フィルター以外
付属品使用なし。

○フィルム

白黒 (フジ) SS, SSS
カラー N100
スライド (コダック) エクタクローム

私がコニカを選んだ理由は安いという点と速
写ができるという2点からである。ペンタック
スはマナウスで日本人旅行者より購入。これで
大分楽になった。とにかく金がないということ
で最低の、切りつめたものになった。

(松本)

＝ テレコは眠る ＝

ヤノママたちにテープレコーダーで録音した彼らの歌を聞かせる
と、あきずにいつまでも聞いていて動こうとしない。そのため、あ
まり余裕のない電池を思いと気がかりでならない。そこで使い奥の
手は「もうテープレコーダーは疲れたから眠る」という。そうする
と彼らは「そうか眠るのか」とすぐ納得して解散するのである。

Y. M.